

◁ ◁ プログラム ▷ ▷

1 クリスマスの歌

	作詞	作曲	編曲
讃美歌			
あめなるかみには	114		
かみのみこはこよいしも	111		
きよしこのよる	109		
もろびとこぞりて	112		
Ave, Verum Corpus		W. A. Mozart	
鐘の音	中田羽俊	M. Leonovich	
O Holy Night /		Adolphe Adam	佐々木基之
Hallelujah "Messiah"		Georg F. Händel	

2 世界の歌

	作詩	作曲	編曲
ローレライ	近藤朔風	F. Silcher	
霜のあした	旗野十一郎	ボヘミア民謡	
しじみ売りの娘	清水修	アイルランド民謡	Raymond Rhea
荒城の月	土井晩翠	滝廉太郎	平井康三郎
赤い靴	野口雨情	本居長世	増田順平
母さんの歌	窪田聡	窪田聡	佐々木基之
ロンドンデリーの歌	関みゆき	アイルランド民謡	佐々木基之

3 REQUIEM C-moll

	Luigi Cherubini	ピアノ 高村 聡
Nr. 1	Introitus et Kyrie	
Nr. 2	Graduale	
Nr. 3	Dies irae	
Nr. 4	Offertorium	
Nr. 5	Sanctus	
Nr. 6	Pie Jesu	
Nr. 7	Agnus Dei	

♪ ♪ ♫ 曲解説 ♪ ♪ ♪

「レクイエム ハ短調」について

この曲は、イタリア生まれのルイジ・ケルビーニによって19世紀初期に作曲されました。その頃彼は、フランスを中心に活躍しており、当時のフランス国王ルイ18世の命をうけて、ルイ16世の冥福を祈る大式典のために作曲しました。フランス・ブルボン王朝の衰退を歴史的背景として、燃え尽きる寸前の一本のたいまつのように、ひととき大きな輝きを放っています。

革命の犠牲となって断頭台の露と消えたルイ16世の運命を、自らまのあたりに見ていたケルビーニは、なみなみならぬ感動をもってこの作曲にとりくんだと言われています。王の悲惨な運命は、地上における光輝も権勢も神の前には無にすぎぬことを何よりも如実に示していました。このような事情に由来して作曲された「レクイエム ハ短調」には、その全体に一種運命的な迫力がみなぎっています。

Introitus (入祭文) 伴奏の低音のつぶやきと合唱とが対話のように交代し、あたかも人間の祈念を表すかのように厳肅さをもちながら穏やかに美しく流れています。

Graduale (昇階誦) 全曲を通して最も温和な響きを持ち、次曲との対照をなしています。

Dies irae (怒りの日) 力強く大規模に展開され、一挙に緊張を盛り上げた後ソプラノ斉唱から次々と受け継がれ、四声による早い動きにもどります。深々とした充実感をもつ「ラクリモーザ」が歌われ、安定した結尾へと導きます。

Offertorium (奉献文) 「怒りの日」とともに、この曲の中心部となっています。イエス・キリストの栄光を讃えた後、これに対照をなして暗い絶望感が表現されます。やがて希望が現われ、天井的な美しさの三部合唱によって前半を静かに閉じます。後半は壮大なフーガで力強く開始され、ゆるやかに叙情的な中間部をはさんで、再びフーガに反復されます。

Sanctus (感謝の讃歌) 比較的短い輝かしい力にあふれた歯切れの良い曲です。

Pie Jesu 一転して暗い悲しみの影がたちこめ、永遠の平安を願いながらつぶやくような余韻を残します。

Agnus Dei (神の仔羊) 深い苦悩が最も濃い影を落としています。天主の仔羊の慈悲と愛に3度繰り返すように叫び、永遠の安息を願う一層静かな祈りへと続きます。最後に20小節にわたるハ音によって、一種の運命的な影を残しながら静かに全曲を閉じます。

ケルビーニの芸術は、ドイツ的とも言うべきある種の重厚さと劇的表出性を特徴としており、ベートベンにまで影響を与えています。この曲の中では、美しい合唱旋律にバレストリーナの血が脈々と流れ、適確な形式感を持ちながら、全体の深い色調と深い劇的表現性にゲルマン的な力強さがただよっています。